

所在地：目黒区原町 2 - 18 - 12 東急目黒線 西小山駅 徒歩 15 分

学校名： 原町小学校		作成年月日：H.11.07.05	調査日：H.16.7/20.7/23
施設タイプ		屋上シート型	
環境概況	植 物	・向原小学校から移植されたアサザ、トチカガミ、ヒルムシロ、コガマのうちトチカガミが広く繁茂し、水面を覆うほどになっている。ヒルムシロ、コガマも定着している。オモダカ、イグサ、セリ、ホタルイも、植木鉢内で生育している。	
	動 物	・メダカ及びももツゴ（稚魚）が多く生育している。 ・ヤゴの抜け殻も確認できた。	
	水 質	・水質は良好で透明度は確保されている。 ・オオカナダモが残されており水質の悪化が抑制されている。	
	周 辺 環 境	・自然芝が設置されたがことにより、草地性の生きものが期待されたが、除草が頻繁に行われているため、期待ほどではない。 ・周囲プランターの植物は、良好な生育をしているものが少なく植物環境として十分なプラス要因になっていない。	
	土 壌	・池の中の土は、植木鉢からでたもので新たな供給はしていないが、新たな供給は荷重の面で危険であるため行わない。	
活動状況	管 理 体 制	・去年より5年生が担当になり、多くの児童が関わる体制となっているが、周辺清掃や草取り作業が中心となっている。	
	管 理 状 況	・トチカガミが繁茂し、夏季の水温上昇を抑制する効果が期待されるが、繁茂が早いため、随時抑制作業が必要になっている。	
	利 用 状 況	・担当学年による観察が行われている。また、各学年で生活科、理科などの利用も実施している。	
今後の予定・計画		・5年生が担当になり、清掃、観察などの活動を継続していく予定である。	

作成後の主な活動経過

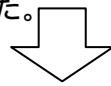
年月日	活動内容	参加形態
H. 11.07.05	池の作成	5 . 6 年生
12.	観察記録の開始	5 . 6 年生
13.	ビオトープ委員会による観察記録の掲示・発表	ビオトープ委員会
14.02	池周辺に芝生及び木製デッキの試験設置	専門家
.10.24	ビオトープ環境の改善のための勉強会及び池内の植物の適正化及び周辺植物の植え替えを行った。	5 年生
15.	観察活動	5 年生
16.04 .05 .06	ビオトープ周辺の清掃・整備 草取り 草取り	5 年生

調査時（平成15年6月）



多様性を増すため、既存のコガマ、ホタルイ、イグサなどに加えて、向原小学校より再度、アサザ、トチカガミ、コガマを移植した。

今後、秋に向けて草地に生息する昆虫類などがやってくることが期待される。



調査時（平成16年7月）



トチカガミが繁茂し水面の3割ほどを覆っている。



トチカガミの他、オモダカ、イグサ、ホタルイなども生育している。

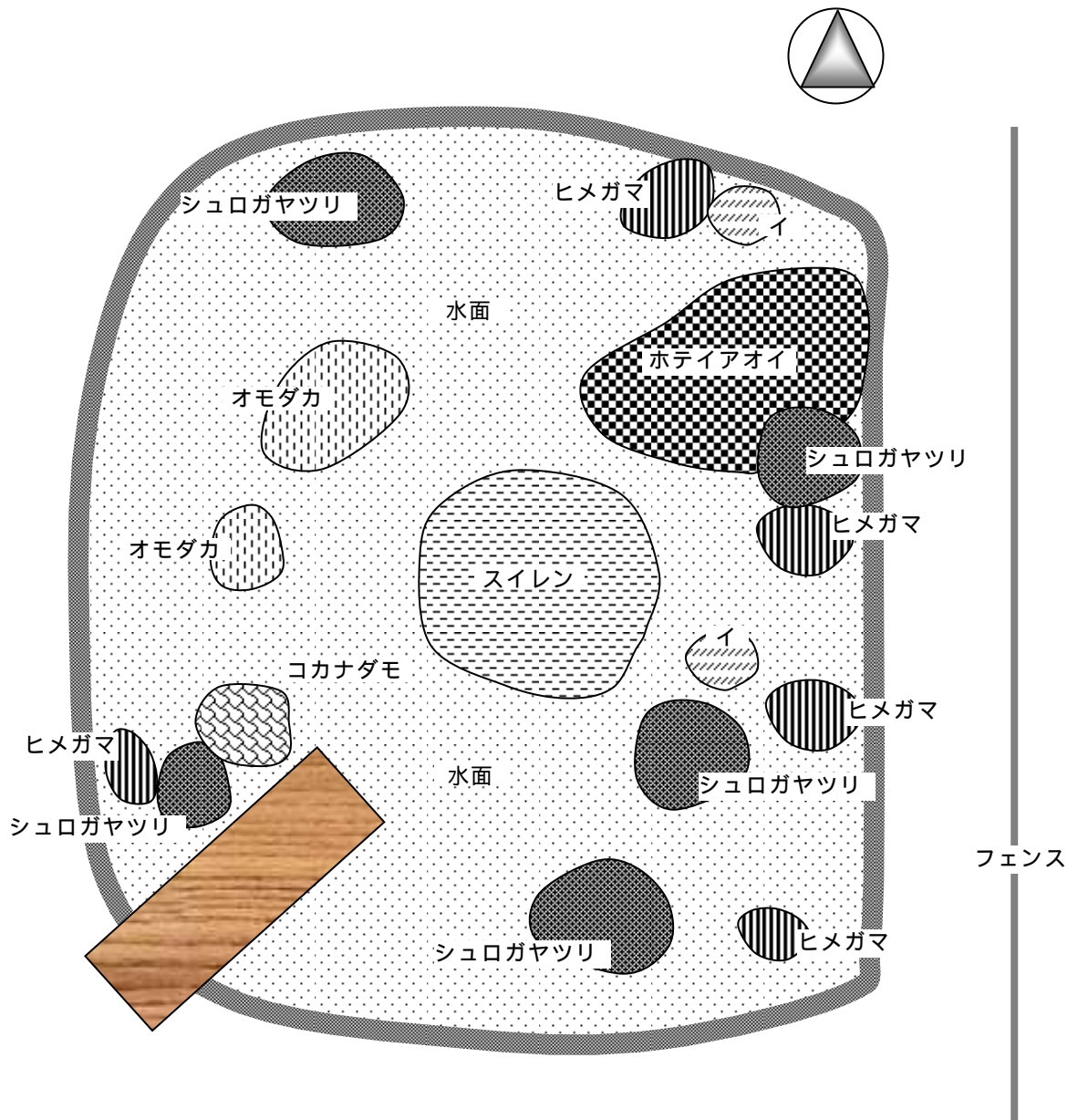


草には、ギンヤンマのヤゴの抜け殻など、トンボの飛来が見られている。



池周辺には、イネや草花などが並べられ、環境の多様性をつくっている。

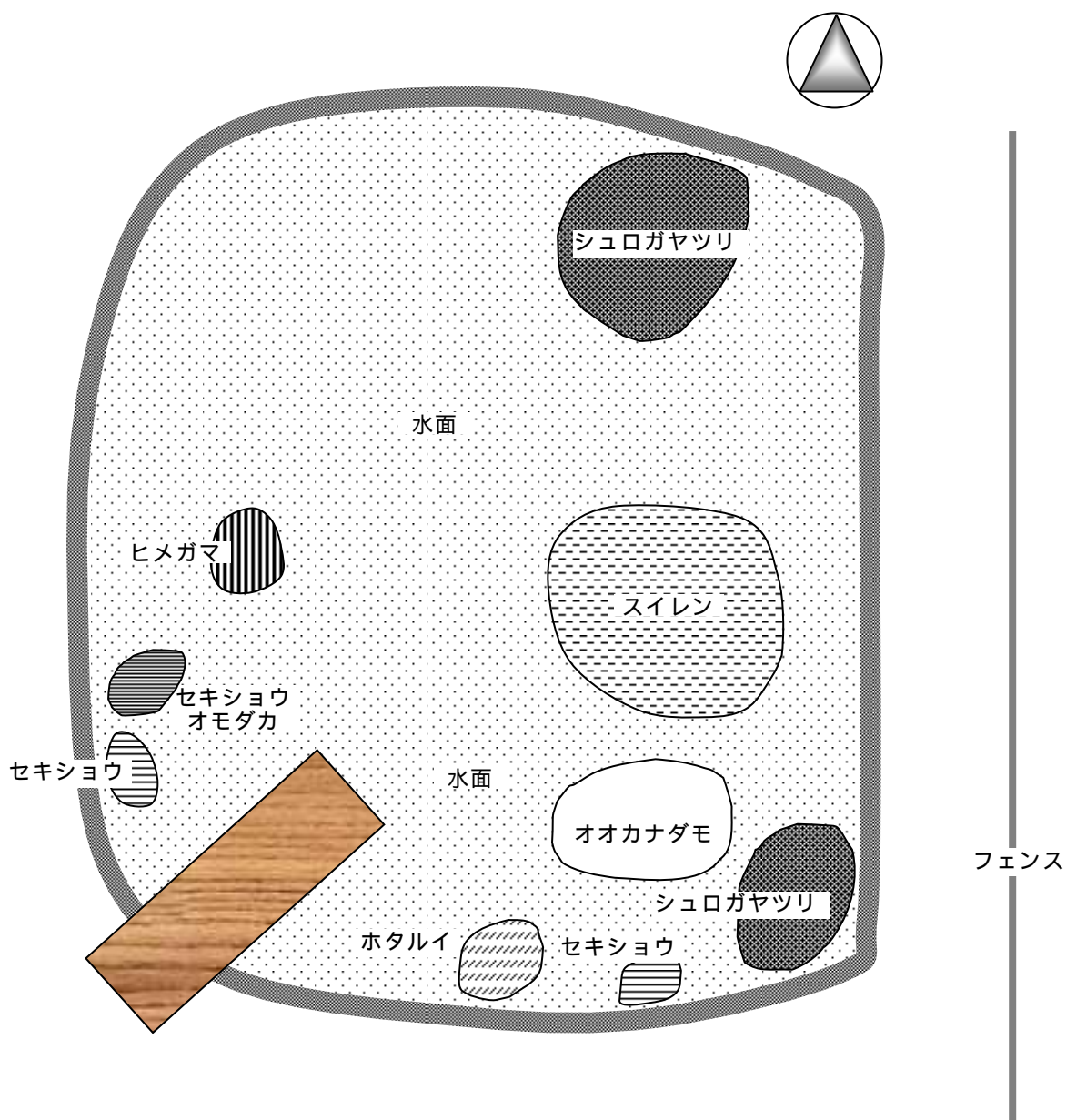
原町小学校
<平成13年度>



植物はポット植栽によって置かれているため、繁茂の心配はない。ただし、高くなると風により転倒しやすくなるため、転倒防止の補強や高さを抑える必要がある。

池周りのポット植栽は、夏期の水温上昇を抑制する役割を担うが、生育が不良の物が多く、適切な管理（給水等）が継続的に必要である。

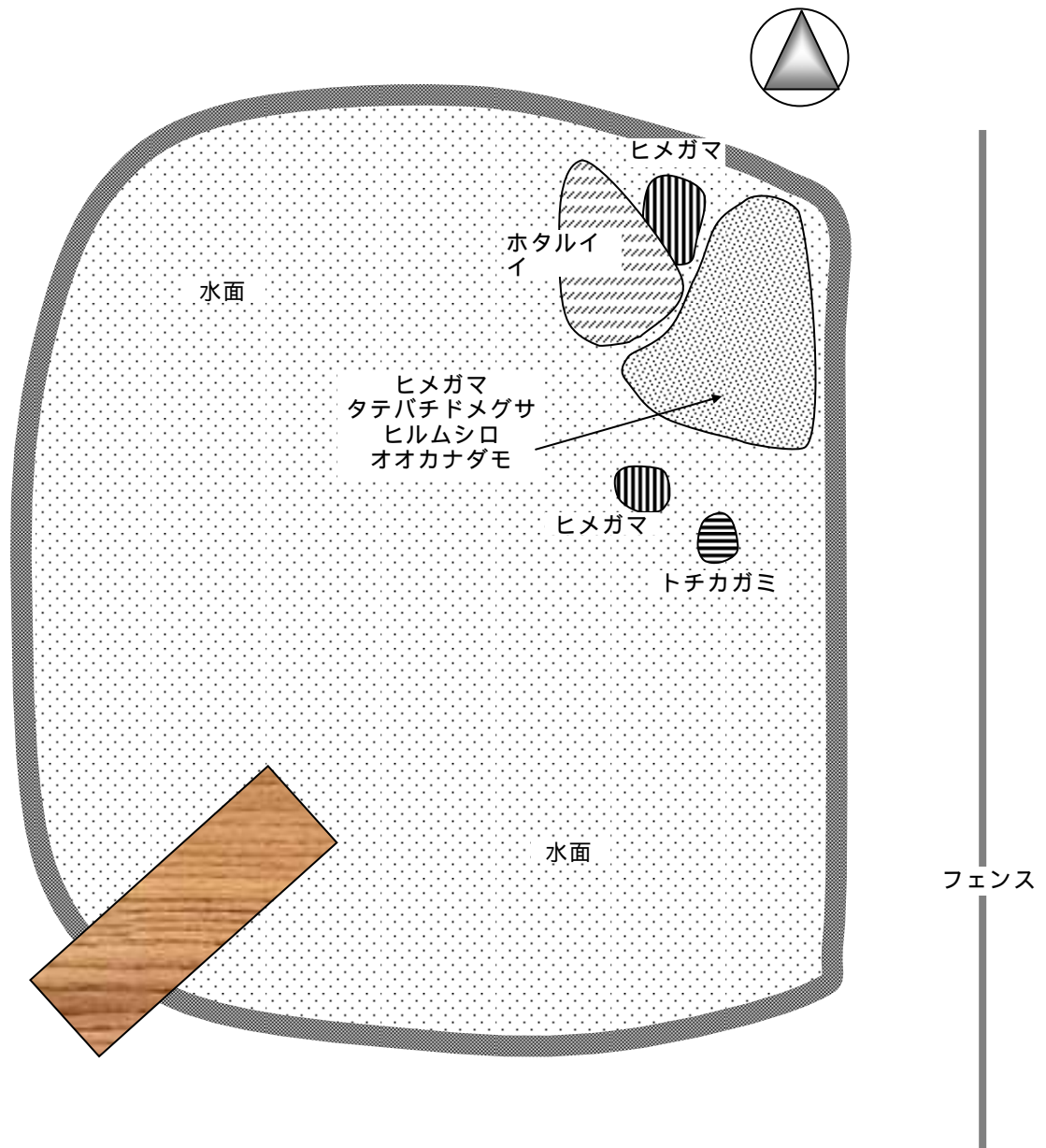
<平成14年度>



植物は植木鉢に植えられて置かれているため繁茂の心配はない。ただし、高くなると風により転倒しやすくなるため、転倒防止の補強や今後は高さを抑えられる種を選択する必要がある。

昨年に比べて、池内の植栽は単調になっている。池内もポット植栽であり、泥土もない状態であるため、自然状態での繁茂はあまり望めないことから、植物環境の多様性を向上するためには、もう少し積極的に植栽する必要がある。

池周りのプランターは、在来種を主とした草本類や低木などの導入により、植物環境の多様性を向上させる必要がある。

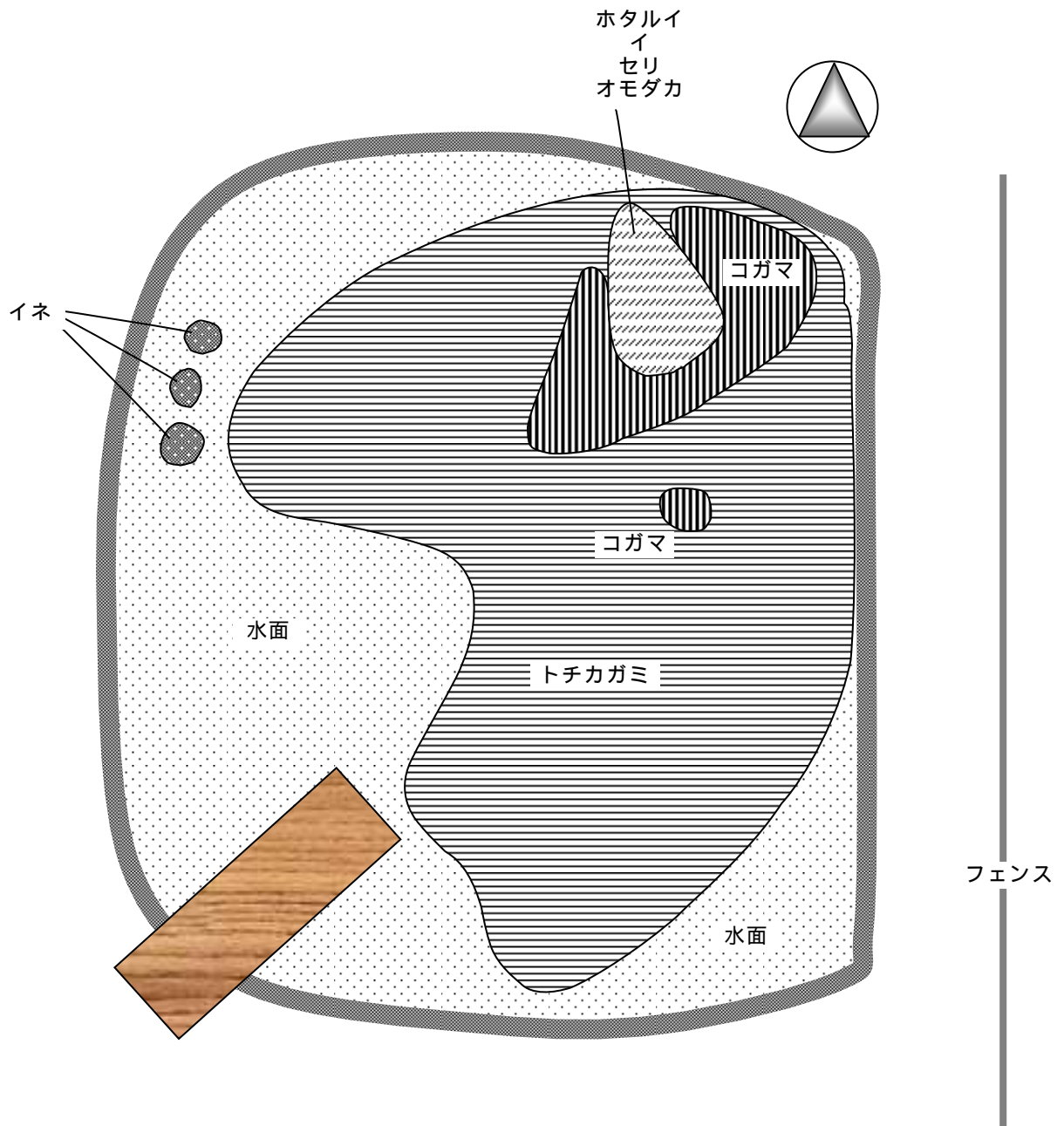


昨年秋に実施された植物整理により、シュロガヤツリなどを取り、在来種を生育させることを目標に作業を行った。一方、向原小学校から移植したミゾソバ、トチカガミ、アサザは根付かなかった。そのため、現状ではそれまで生育していたヒメガマ、ホタルイ、セキショウなどが見られるが、まだ、旺盛な生長をするまでには回復していない状況である。

そのため、植物環境の多様性が不足するとともに、夏期の水温上昇が懸念されるため、再度の向原小学校からの移植作業を行うこととした。その際、根付きが良いように田んぼの土を補給し、植木鉢で植え付けることとした。

しかし、植え付け作業が遅れ、田んぼの土が固まり、植物環境の創出が遅れている。これらの作業を円滑に実施し、環境を適切に維持していくためには、定期的な作業や観察を行う体制をつくり、児童が中心になって活動する必要がある。

<平成16年度>



帰化植物であるタテバチドメグサは除去作業により、ほとんど見られなくなった。一方、移植したトチカガミが強く繁茂しており、水面を覆い尽くす勢いがあるため、トンボなどが水面を見つけやすくするためには、常時1 / 3程度に抑制する必要がある。

今後は植え鉢を分散させ、アサザ、ヒルムシロ、セリなどの占有を高めることが考えられる。